

生き生き消防団

女性消防団の活躍

長野県 南箕輪村消防団

1 はじめに

南箕輪村は、長野県の南部に位置し、人口約15,000人、世帯数5,600世帯、総面積40.90km²で西に中央アルプス連峰、東に南アルプス連峰を望み、伊那谷の中で一番広い平地の中心に位置しております。天竜川西岸の河岸段丘には緑濃い田園と畑作地帯が広がり、伊那谷有数の美しい風景を作り出しています。

これらの緑豊かな自然環境と住みよい気候風土のもと、村内の人口は順調に増加しつづけ、

県下有数の人口増加率と県下一低い高齢化率の村となっています。

消防団は、現在5分団11部団員数230人の体制で活動しています。

2 女性団員の挑戦

南箕輪村では、年々、組織体制、活動の充実を図っており、平成6年に上伊那地域で初となる女性消防団員を採用しました。

現在、会社員、ピアノ教師、保育士、看護師、



長野県ポンプ操法大会模範演技の一場面



長野県赤十字救急法競技大会 南箕輪村消防団救護班のメンバー

歯科助手、主婦、りんご農家、専門学校生、信州大学学生（他県出身）と様々な職種の団員13名が所属しています。

男性と同じように毎月2回の通常点検や春季・秋季演習や防災訓練があります。もちろん、火事があれば何をおいても出動します。その他にも救護訓練や地域の方々にAED講習会などで指導を行っています。

3 女性団員、学生たちの入団の動機

以下は、女性消防団員の生の声です。

そもそも『消防団員って何する人たち？』というくらい、消防団のことは、ほとんど何も知らない状態に入ってきたので、何をするにも新鮮でドキドキ・わくわくといった毎日でした。

もちろん『操法大会』も知らなかったです。お手伝いをしながら、なぜ男性たちがその大会に熱くなるかも全然わからずにいました。でも、見ているうちに自分たちも操法をしてみたいという気持ちになりました。「男性はいいなあ～」と思いながら見ていました。

そんな思いを察知したのか『女の子たちだけでできたらカッコいいよね。やってみる？』と分団長が提案してくれたのです。

ただ、最初は神聖な場に入っていくようで、自分たちが凶々しいような気がしました。それに、ただでさえ団員数が少ない部で、お手伝いだってギリギリなのに私たちが出たら男性のチームがやっつけられるのか心配でした。

でも、男性団員から『大丈夫。みんなでフォローするから！』という心強い言葉をいただいて、南箕輪村初となる女性小型ポンプ操法チームが立ち上がったのです。

全員が全くの素人で、ゼロからのスタートでしたが、操法を覚えるのにはあまり苦労しませんでした。ただ、男性と明らかに違うのが力の無さ。使う道具はすべて男性チームと同じものですから、ホースは重くて肩に担ぐのにも大変でした。ましては担いで走ったり、ホースを下ろしたり、そして投げたりするのは大変なことでした。そんな状況でしたが、大変だとは思いつつと裏腹に訓練することは楽しくて仕方なかったのです。

4 操法の経験から体験したこと

操法大会に出ることになってわかったことが一つあります。当村の女性団員はみんな負けず嫌いだということです。こんなことを言っています。

最初は「出られるだけで幸せ。」なんて思っていたのに、いつの間にか「せっかくだから頑張ってこよくやりたい!」、「女性だからしょうがないなんて思われたくない!」、「男性と同じ大会に参加して戦えるようになりたい!」と思うようになっていたのです。

朝は4時半に集合して7時まで訓練、仕事が終わればまたすぐに訓練です。でも、決して笑顔を忘れませんでした。皆さんの応援のおかげで、常に明るく楽しい操法をすることができました。

その結果、村の大会では9チーム中、初出場4位となり、さらに長野県大会の模範操法発表として出場することになりました。あんなに大勢の方に囲まれることなんてもう二度と体験できないことではないかと思えます。そしてゼロからスタートした私たちの明るく楽しい操法は、県内各地から会場に集まった大勢の方々の大きな拍手を受けながら、初めての挑戦の幕を閉じました。

消防団に入って改めて強く感じたのは、人のあたたかさ、人とのつながりの大切さです。災害が起きたときには、みんなの力が集まってこそ大きな力が生まれます。私たちは操法大会を通じて仲間のありがたさを強く感じました。私



長野県赤十字救急法競技大会で競技に集中する女性団員

たちが消防団活動を『楽しい』と思い、続けていられるのは、紛れもなく理解ある団長や本部幹部、そして地元分団長や団員の皆さんのおかげなのです。

5 今後へのさらなる飛躍

昨年、上田市で開催された長野県女性団員意見発表会に信州大学学生の団員が出場し、全県の女性団員たちにひとつのメッセージを送りました。

「南箕輪村消防団では、今までの伝統を大事にしなが、固定概念にとらわれず、様々なことにチャレンジしながら、めまぐるしく変わる時代の変化に積極的に対応するため、女性消防団員の活動する場を広げてくれています。」

この言葉や当村消防団のアットホームな雰囲気もあって、自分から興味を持って入団を希望する女性もあり、消防団に対するイメージも少しずつ変化していると感じています。

『自分たちの村は自分たちで守っていこう!』そう思えるように、今後も消防団の大切さや素晴らしさをPRし、身近で親しみある消防団を目指して、みんなで元気に活動を続けていきたいと思っています。



長野県女性消防団員意見発表会で発表する信州大学農学部学生